

2025年産

水稲栽培のしおり

香川県農業協同組合東讃営農センター
(国分寺)

香川県中讃農業改良普及センター(監修)

品質食味向上を図り、安全で安心な売れる米を作りましょう

○ 環境への配慮

- ①稲わら、麦わら等は焼かずにすき込み、堆きゅう肥等の施用により土づくりに努めましょう。
- ②農薬散布の際は、周辺環境に被害を及ぼすことがないよう飛散防止対策を講じましょう。

○ 品質・食味の向上

- ①近年、平均気温が上昇していますので、播種、田植時期は生育管理の目安に準じて行いましょう。
- ②地力に応じた施肥に努め、特に穂肥は草姿、葉色、品種特性に合わせた適期、適量の施肥を行いましょう。
- ③生育期間を通じて間断灌水を行い、適正な水管理に努めましょう。
- ④必須防除の徹底と病害虫の発生状況に応じて確認防除を実施しましょう。
- ⑤収穫前には異品種の混入を回避するため、コンバイン、乾燥機等の清掃を徹底しましょう。
- ⑥品質・食味を落とさないよう粉黄変率85％程度の時に収穫し、収穫後3時間以内に乾燥作業を行いましょう。

1.生育・管理の目安

(品種選定は、別紙「香川県水稲主要品種の特性と作付方向」を参考としましょう。)

地域名	品 種 名	作 型	播 種	田 植 え	初期除草剤散布 (田植7日後迄)	間断灌水開始 (田植15日後)	中干し期間 (田植25日後頃～ 出穂25日前頃)	穂肥施用 (出穂18・ 16日前)	湛水開始 (出穂15日前)	本田防除 1 回目(いずれか)		出穂期	本田防除 2 回目	間断灌水開始 (出穂後15日)	落水期 (収穫7日前)	収穫期
綾歌南部	コシヒカリ	早期	4/ 6	5/ 5	5/ 5～5/12	5/20	6/ 4～6/26	7/ 5	7/ 6	7/ 1～7/ 6	7/18～7/20	7/21	7/31～8/10	8/ 5	8/14	8/21～ 8/23
			4/16	5/15	5/15～5/22	5/30	6/14～7/ 1	7/10	7/11	7/ 6～7/11	7/23～7/25	7/26	8/ 5～8/15	8/10	8/19	8/26～ 8/28
	ヒノヒカリ	短期	5/ 6	5/30	5/30～6/ 6	6/14	6/24～7/10	7/19	7/20	7/15～7/20	8/ 1～8/ 3	8/ 4	8/14～8/24	8/19	8/30	9/ 6～ 9/ 7
			5/26	6/15	6/15～6/22	6/30	7/10～7/20	7/29	7/30	7/25～7/30	8/11～8/13	8/14	8/24～9/ 3	8/29	9/ 9	9/16～ 9/18
	クレナイモチ		6/ 1	6/20	6/20～6/27	7/ 5	7/15～8/ 2	8/ 9	8/12	8/ 7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/ 6～9/16	9/11	9/25	10/ 2～10/ 7
			6/ 1	6/20	6/20～6/27	7/ 5	7/15～8/ 3	8/10	8/13	8/ 8～8/13	8/25～8/27	8/28	9/ 7～9/17	9/12	10/ 5	10/12～10/15
坂出(国分寺)	コシヒカリ	短期	6/ 1	6/20	6/20～6/27	7/ 5	7/15～7/21	7/30	7/31	7/26～7/31	8/12～8/14	8/15	8/25～9/ 4	8/30	9/ 9	9/16～ 9/18
	ヒノヒカリ		6/ 6	6/25	6/25～7/ 2	7/10	7/20～8/ 5	8/12	8/15	8/10～8/15	8/27～8/29	8/30	9/ 9～9/19	9/14	9/27	10/ 4～10/ 9
	クレナイモチ		6/ 1	6/20	6/20～6/27	7/ 5	7/15～8/ 3	8/10	8/13	8/ 8～8/13	8/25～8/27	8/28	9/ 7～9/17	9/12	10/ 5	10/12～10/15
水の必要度／水の深さ				○	○	○	△	○	○	出穂15日前～出穂後15日は必ず湛水する。		○	○	○	○	×
品種名及び作業日			月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
※実際の作業日を記入してください。			月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日

※中干しの開始及び終了時期、期間を守りましょう。(亀裂の程度 中干しは10ミリまで) また、強い中干しは収量・品質を低下させますので注意しましょう。

※収穫期は、過去5年間の滝宮・多度津アメダスデータを利用し、出穂期からの積算温度で算出 コシヒカリ：900～950℃ ヒノヒカリ：920～1,030℃

2.施肥基準

1)基肥＋穂肥の施肥基準

コシヒカリ (早期栽培 5月15日までの田植)					kg/10 a
肥 料 名	全 量	基 肥	穂 肥	成分量	
コ シ ャ タ ッ チ	52	32	20	N 5.2 P 5.2 K 5.2	

コシヒカリ (短期栽培 5月16日以降の田植)					kg/10 a
肥 料 名	全 量	基 肥	穂 肥	成分量	
コ シ ャ タ ッ チ	44	24	20	N 4.4 P 4.4 K 4.4	

ヒノヒカリ					kg/10 a
	全 量	基 肥	穂 肥	成分量	
スーパーブレンドLP40	53	28	25	N 7.4 P 7.4 K 7.4	

3)土壌改良資材

kg/10 a	
資 材 名	全 量(基肥)
ユーキ鉄ケイカル	100
苦 土 一 番	40
け い 酸 加 里	30～40

本田施肥上の注意事項

- ①手振りの場合は、基肥を1割増肥する。
- ②基肥一発施肥は基肥のみの施用になるので、散布ムラのないよう注意する。また、穂肥は施用しない。
- ③基肥は地力、前作物の状態によって、穂肥は生育や気象状況によって、加減して過剰施肥を避ける。
- ④全品種とも、土づくりのため、荒起こし時にユーキ鉄ケイカルまたは苦土一番を施用する。
- ⑤苦土一番、けい酸加里の施用時期は、基肥、追肥(出穂30～40日前)いずれの施用でも良い。
- ※水田では、肥料成分溶出後の被膜殻が浮上することがありますので、被膜殻を圃場外へ流出させないように注意して下さい。

3.雑草防除基準

区分	使用時期 (推 奨)	対象雑草名	除草剤名	使用基準(登 録 内 容)			注 意 事 項	品種及び 使用月日		
				10 a 当り 使用量	使用時期	使用回数		月	日	月 日
初期除草	移植直後～9日	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	カチボシL ジャンボ	30 g ×10個 (300 g)	移植直後～ノビエ25葉期 ただし、移植後30日まで	1回	①散布後3～4日は水深3～5 cmを保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。			
	移植直後～9日	ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ アオミドリ 藻類 による表層剥離	ジェイソル フロアブル	500ml	移植直後～ノビエ25葉期 ただし、移植後30日まで	1回	②藻や浮草が発生している水田では、拡散効果が低下し、薬害や効果不良のおそれがあるので、使用しない。			
	移植時又は 移植直後～9日		ラオウ 1キロ粒剤	1 kg	移植時又は 移植直後～ノビエ25葉期 ただし、移植後30日まで	1回	③移植時処理は、田植機に専用散布布を装着した場合に限る。 ④湛水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ⑤藻類が繁茂した後では効果が劣るので、藻類の発生前～発生始めまでに散布する。			
中 期 除 草 剤	移植後7日～ ノビエ3葉期まで	ノビエ キシュウスズメノヒエ アゼガヤ	クリンチャー 1キロ粒剤	1 kg	移植後7日～ノビエ4葉期 ただし、収穫30日前まで	2回 以内	①初期除草剤散布後、ノビエ等が発生した場合に使用する。 ②散布後3～4日間は湛水状態を保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。 ③クリンチャーバスメ液剤とあわせて3回以内の使用とする。			
	移植後20日～ ノビエ3葉期まで	マツバイ ホタルイ クログワイ ミズガヤツリ ウリカワ	セカンドショット SジャンボMX	25 g ×20個 (500 g)	移植後20日～ ノビエ3葉期 ただし、収穫45日前まで	1回	①湛水状態で10 a /20個を均一に投げ込む。 ②散布後湛水状態で7日間落水、かけ流しをしない。 ③藻や稲ワラ等残液は拡散を妨げ、効果不足の原因となる。			
	移植後20日～ ノビエ4葉期まで	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガヤツリ、 オモダカ、コウキヤガラ	ツイゲキ豆つぶS250	250 g	移植後20日～ノビエ4葉期 ただし、 収穫60日前まで	1回	①水深5～6 cmの湛水状態で散布し、散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 ②異常高温時は薬害発生のおそれがあるので、使用を避ける。			
	移植後20日～ ノビエ4葉期まで (落水後処理)	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ オモダカ キシュウスズメノヒエ	クリンチャー バスメ液剤	1000ml	移植後15日～ノビエ5葉期 ただし、収穫50日前まで	2回 以内	①水70～100 ℓに溶かして使用する。 ②落水してから散布し、その後3日間は入水しない。 ③クリンチャー1キロ粒剤とあわせて3回以内の使用とする。 ④バサグラン粒剤とあわせて2回以内の使用とする。			
	移植後20日～30日 (落水後処理)	水田一年生雑草(イネ科除く) ホタルイ、マツバイ ウリカワ ミズガヤツリ オモダカ	バサグラン粒剤	3～4 kg	移植後15日～55日 ただし、収穫60日前まで	1回	①落水又はごく浅く湛水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ②散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままでの状態を保ち、入水、落水、かけ流しをしない。 ③クリンチャーバスメ液剤とあわせて2回以内の使用とする。			
発生始期～盛期		ウキササ類 藻 類	モゲトン粒剤	2～3 kg	発生始期～盛期 ただし、収穫45日前まで	3回 以内	①散布後少なくとも3～4日間はそのままの湛水状態を保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。 ②水稲が水没するような極端な深水で使用するると薬害を生ずることがあるのでさける。			

◆倒伏軽減剤

使用時期	農 業 名	使用基準(登 録 内 容)			注 意 事 項	品種及び使用月日		
		10 a 当り使用量	使用時期	回数		月	日	月 日
出穂25～10日前	ロミカ粒剤	2～3 kg	出穂25～10日前	1回	①湛水処理とし散布量を厳守し均一に散布する。 ②当剤を使用した水田の土壌を野菜類の育苗用床土にしない。	月	日	月 日

○ JA香川米への取組み

消費者から信頼され、売れる米づくりのため、下記の要件を満たしたJA香川米の生産に取組みましょう。

- ①銘柄が確認された種子(毎年、種子更新100％)により生産・出荷されたお米
- ②栽培基準が守られている事が栽培履歴書により確認されたお米
(収穫15日前までに各支店・ふれあいセンターへ栽培履歴書を提出して下さい)
- ③JA香川県で農産物検査を受けたお米
- ※「おいでまい」は、県公募と綾川町推進地域を対象として、栽培しおりは別業とします。
- ※「あきさかり」の栽培しおりは別業とします。

4.病害虫防除基準

1)必須防除

防除時期	対象病害虫名	農 業 名	使用基準(登 録 内 容)				注 意 事 項	品種及び使用月日		
			消毒時間	希釈倍数	使用時期	回数		月	日	月 日
浸種前	ばか苗病、いもち病 もみ枯細菌病 褐条病、こま葉枯病	テクリードC フロアブル	24時間	200倍 (水10ℓに50ml)	浸種前	1回	①乾燥粉と同量～2倍量の薬液に24時間浸漬する。 ②消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 ③消毒後の薬液は用水などに流さない。			
	心枯線虫病	スミチオン乳剤		1000倍 (水10ℓに10ml)	播種前	1回				

育苗期の防除

対象病害虫名		農 業 名	使 用 基 準 (登 録 内 容)				注 意 事 項	品 種 及 び 使 用 月 日		
			希 釈 倍 数	1箱当り使用量	使用時期	回数		月	日	日
苗立枯病	ピシウム菌 フザリウム菌	タチガレエースM 液剤	500～1000倍 (水10ℓに20～10ml)	希釈液を 500ml灌注	播種時 又は 発芽後	1回	①播種量の多い条件では苗が伸びすぎることもある。 ②発芽後に使用する場合は1000倍希釈液を1箱当り500ml灌注する。			
	トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾープス菌	ダコレート 水和剤	400～600倍 (水10ℓに25～166g)	希釈液を 500ml灌注	播種時～ 緑化期	2回 以内	①播種14日後までに使用する。 ②タチガレエースM液剤、同粉剤を使用した場合は、必ず使用間隔を3日以上あける。			

育苗箱防除

防除時期	使用地域	対象病害虫名	農 業 名	使用基準(登 録 内 容)			注 意 事 項	品種及び使用月日		
				1箱当り使用量	使用時期	回数		月	日	月 日
田植え当日	いもち病 多発地域	いもち病、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	Dr.オリゼスタークル 箱粒剤	50 g	緑化期～ 移植当日	1回	①老化苗、軟弱徒長苗、葉萎がぬれているときは薬害のおそれがあるので使用しない。 ②薬害に付着した薬剤は、払い落としで移植する。 ③移植後は直ちに入水し株元の土が露出しないようにする。			
	中山間～ 平地	いもち病、紋枯病 ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ	ビルダーフェルテ ラエスGTT粒剤	50 g						
	平地地～ 海沿い	いもち病、紋枯病 ウンカ類 コブノメイガ イネツトムシ	稲大將	50 g	播種時～ 移植当日					

※「水稲育苗のしおり」を参考に施用する。

本田防除

防 除 時 期		対象病害虫名	農 業 名	使用 基 準 (登 録 内 容)			注 意 事 項	品種及び使用月日			
				10 a 当り使用量	使用 時 期	回数		月	日	月 日	
防 除 一 回 目	い ず れ か	出穂 20～15日前	いもち病、紋枯病 ウンカ類、カメムシ類	ゴウケツモンスター粒剤	3 kg	収穫45日前まで	1 回	① 3 cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後 1 週間は落水やかけ流しをしない。			
				ワイドバンチ豆つぶ	250 g	収穫35日前まで	1 回				
		出穂 3日前～直前	いもち病、紋枯病	ダブルカットバリダフロアブル※	1000倍 60～200 ℓ	穂揃期まで	2 回以内		①ていねいに散布し隣接ほ場に飛散しないよう注意する。		
防 除 二 回 目	い ず れ か	出穂後 10～20日	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤	3 kg	収穫7日前まで	3 回以内	①粒剤は3 cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後 1 週間は落水やかけ流しをしない。 ②水溶剤は、ていねいに散布し隣接ほ場へ飛散しないよう注意する。 ③ゴウケツモンスター粒剤を使用したほ場は、粒剤・水溶液あわせて 2 回以内の使用回数とする。 ④斑点米の発生を防ぐため、必須防除とする。			
				スタークル顆粒水溶剤	2000倍 60～150 ℓ						
				スタークル豆つぶ	250 g						

※出穂前にダブルカットバリダフロアブルとスタークル顆粒水溶剤の混用散布を行う。

2)確認防除

防 除 時 期	対象病害虫名	農 業 名	使用基準(登 録 内 容)			注 意 事 項	品種及び使用月日		
			10 a 当り使用量	使用時期	回数		月	日	月 日
移 植 後	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	スクミノン	1～4 kg	収穫60日前まで スクミノンと ジャンボたにしくん は、あわせて 2回以内の 使用とする	2回 以内	①移植後、スクミリンゴガイを確認したら直ちに散布する。 ②水口周辺や浸水になる場所は被害が多いので、所定の範囲内で多めに散布する。			
		ジャンボたにしくん	1～2 kg						
穂ばらみ期～穂揃期	紋枯病 こうじ病	モンガリット粒剤	3～4 kg	収穫30日前まで	2回 以内	①3 cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。			
7月中旬～8月上旬	コブノメイガ イネツトムシ	バダン粒剤4	3～4 kg	収穫30日前まで	6回 以内	①3 cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。			
葉いもち 初発10日前～初発時	いもち病	コラトップ豆つぶ	250 g	出穂5日前まで	2回 以内	①コラトップ豆つぶは、3 cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。			
		ブラシンプロアブル	1000倍	収穫7日前まで					

※稲こうじ病の液剤処理はブラシンプロアブル1000倍にて行う。